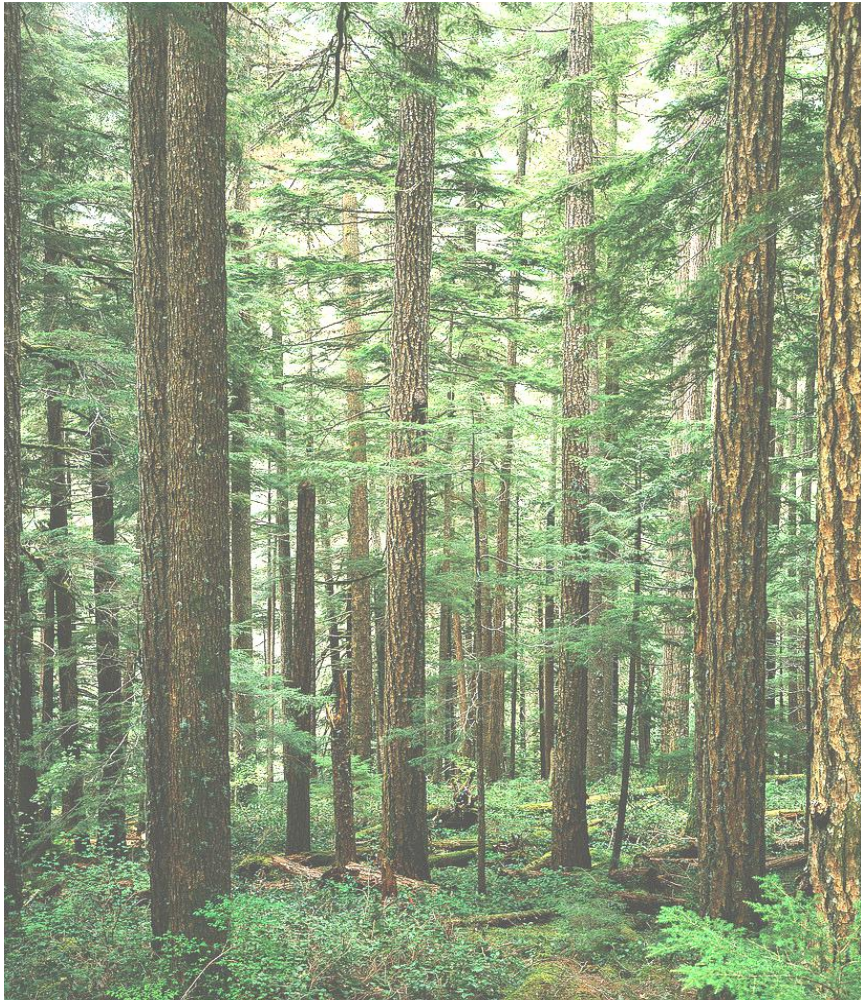


EA21 環境経営レポート

2023 年度 2023 年 10 月～2024 年 9 月



有限会社 岡村商事

2024 年 11 月 20 日

ごあいさつ

起業にあたり、「お客様の信頼を糧とし、リサイクルのエキスパートを目指そう！」を当社のモットーとして、環境への取り組みは事業活動における重要課題の一つであることを認識し、日頃の事業活動を通じて、お客様と地域の皆様に環境配慮に役立つ事業を展開しております。

これからも県内で多くのリサイクル化を願っておられます皆様のために、全社員が一丸となって取り組んでまいります。

環境経営方針

《理念》

地球環境保全を最重要課題とし、循環型社会の一員として自覚し、二酸化炭素排出量削減、リサイクル事業を通じて、地球環境保全、温暖化防止に努めます。

《方針》

「お客様の信頼を糧にし、リサイクルのエキスパートを目指そう！」を当社のモットーとして、環境への取り組みは、事業活動における最重要課題の一つであることを認識し、日頃の事業活動の中で環境に配慮するため、次に示す環境活動に努めます。

- 1) 当社は産業廃棄物、及び一般廃棄物の収集運搬、リサイクル事業において、環境マネジメントシステムを活用し、環境汚染の防止及び環境保全活動の継続的改善を図ります。
- 2) 環境保全に関する法規制、及び当社が約束したその他の要求事項を遵守し、一層の環境保全に取り組みます。
- 3) 事業活動の中で、特に以下の項目について環境負荷軽減活動を推進します。
 - ① 二酸化炭素排出量の削減
軽油使用量、電気使用量の削減により二酸化炭素排出量の削減に努めます。
 - ② 廃棄物の削減
イ) 受託産業廃棄物の再資源化に取り組み、廃棄物の削減に努めます。
ロ) 事務所からの排出量削減に努めます。
 - ③ 水使用量の削減
洗車時の節水、散水時の貯留した雨水の利用で、地下水使用量の節減に努めます。
 - ④ 環境経営システムの運用、改善による保全活動を推進します。
- 4) 緑豊かな地域の美しい環境を維持するために、常に事業所周辺の清掃に心がけると共に、周辺地域とコミュニケーションを図り地域社会に貢献します。
- 5) 環境教育を実施し、全従業員が環境方針を周知すると共に、取引先等へも公表します。

2024年5月1日制定

有限会社 岡村商事
代表取締役社長
近藤 義一

1. 組織の概要

1. 事業所名及び代表者氏名

有限会社岡村商事

代表取締役社長 近藤 義一

2024年5月1日に代表者交代

2. 所在地

〒265-0076 千葉県千葉市若葉区下田町 812 番地

3. 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者： 近藤 義一

担当者： 同上

連絡先：電話： 043-239-1988 Fax： 043-239-1990

4. 事業内容

＊一般廃棄物収集運搬業

＊産業廃棄物収集運搬業

＊産業廃棄物処理業

＊廃棄物再生業

＊一般貨物自動車運送業

5. 事業の規模

法人設立年月日： 昭和 55 年 12 月 1 日

資本金： 300 万円

売上高： 223 百万円 (2023 年 10 月～2024 年 9 月)

収集運搬量： 4,359 トン／年 (2023 年度 産業廃棄物＋一般廃棄物)

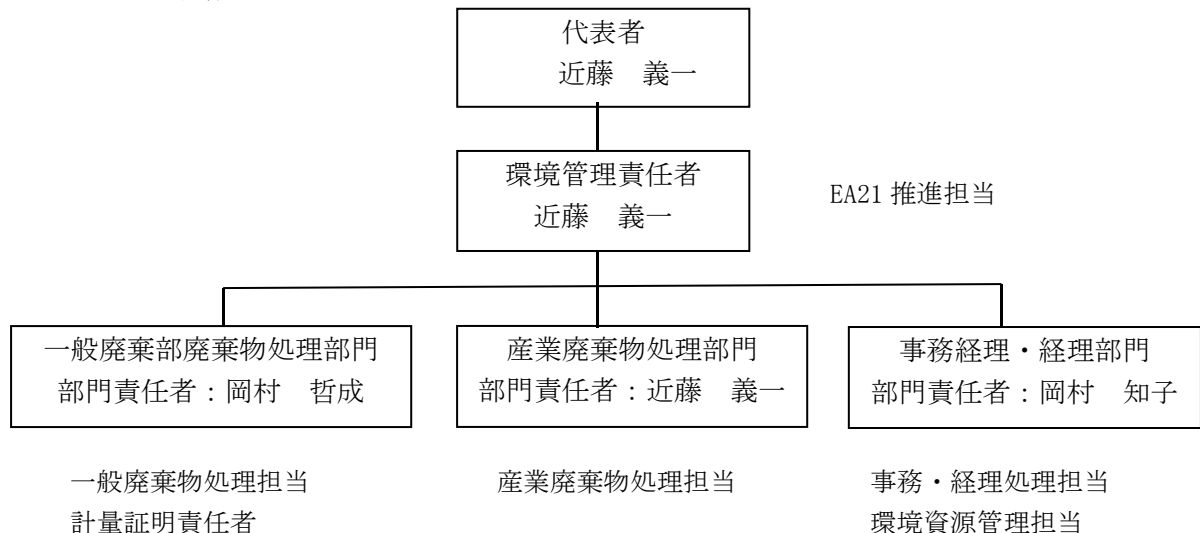
中間処理量： 3,005 トン／年 (2023 年度 産業廃棄物)

従業員数： 15 人 (2024 年 11 月現在)

敷地面積： 5,621 m²

事業所面積： 2,406 m²

組織図



2. 対象範囲

登録組織名： 有限会社岡村商事
 認証事業所： 本社・リサイクルセンター
 認証範囲： 一般廃棄物収集運搬業、産業廃棄物収集運搬業、
 産業廃棄物処理業、廃棄物再生事業、
 一般貨物自動車運送業

3. 許可の内容

<一般廃棄物収集運搬業許可証>

都市名	許可番号	許可年月日 有効年月日	業種
千葉市	第 15 号	令和 6 年 4 月 1 日 令和 8 年 3 月 31 日	一般廃棄物(ごみ) 収集運搬業 (積替え・保管を除く)
四街道市	第 21 号	令和 6 年 12 月 15 日 令和 8 年 12 月 14 日	一般廃棄物 (し尿・浄化槽汚でいを除く) 収集・運搬
佐倉市	一廃第 13 号	令和 6 年 4 月 1 日 令和 8 年 3 月 31 日	一般廃棄物 (し尿を除く) 収集・運搬

<産業廃棄物収集運搬業許可証>

産業廃棄物収集運搬業			許可品目										
都道府 県都市 名	許可番号	許可年月日 有効年月日	汚 泥	廃 油	廃 プ ラ ス チ ッ ク 類	紙 く ず	木 く ず	繊 維 く ず	動 植 物 性 残 渣	金 属 く ず	ガ ラ ス く ず・ 陶 磁 器 く ず	コ ン ク リ ー ト く ず・ コ ン ク リ ー ト タ ン ク	が れ き 類
千葉県	第 01200042951 号	2021 年 11 月 18 日 2026 年 10 月 27 日	● ②	●	● ③	●	●	●	●	● ⑥	● ③		● ①
千葉市	第 05510042951 号	2021 年 10 月 26 日 2026 年 10 月 20 日	● ⑤	●	● ④	●		●	●	● ⑤	● ④		● ①
					○		○					○	
東京都	第 13-00-042951 号	令和 6 年 6 月 21 日 令和 11 年 6 月 20 日	● ⑦	● ⑦	● ⑦	● ⑦	● ⑦	● ⑦	● ⑦	● ⑦		● ⑦	● ⑦
茨城県	第 00801042951 号	令和 7 年 2 月 22 日 令和 12 年 2 月 21 日	● ⑧	● ⑩	● ⑪	●	●	●		● ⑨	● ⑪		● ⑫
埼玉県	01100042951	2020 年 8 月 20 日 2025 年 7 月 1 日	● ②	1	● ②	●	●	●	●	● ②	● ②		●
神奈川県	01403042951	令和 6 年 1 月 6 日 令和 11 年 11 月 3 日	● ②	●	● ⑦	●	●	●	●	● ②	● ⑦		● ①

○印は積替え・保管を含む

- 記号： ① 石綿含有産業廃棄物を含む
 ② 水銀使用製品産業廃棄物を含む
 ③ 石綿含有産業廃棄物及び水銀使用製品産業廃棄物を含み、自動車等破砕物を除く
 ④ 石綿含有産業廃棄物を含む及び水銀使用製品産業廃棄物（蛍光ランプ、水銀電池、空気亜鉛電池に限る）を含む
 ⑤ 水銀使用製品産業廃棄物（蛍光ランプ、水銀電池、空気亜鉛電池に限る）を含む
 ⑥ 水銀使用製品産業廃棄物を含み、自動車等破砕物を除く
 ⑦ 石綿含有廃棄物を含む、水銀使用製品産業廃棄物を含む
 ⑧ 水銀使用製品産業廃棄物を含む、水銀含有ばいじん等を除く
 ⑨ 自動車等破砕物を除く、水銀使用製品産業廃棄物を含む
 ⑩ 水銀使用製品産業廃棄物を除く
 ⑪ 自動車等破砕物を除く、石綿含有産業廃棄物を除く、水銀使用製品産業廃棄物を含む
 ⑫ 石綿含有産業廃棄物を除く

<産業廃棄物保管施設の数量> (千葉市産業廃棄物収集運搬業積替え・保管)

品目	保管面積	保管容量	保管高さ	保管上限	数量
がれき類	8.13m ²	8.2m ³	1.2m	8.2m ³	1
廃プラスチック類	8.13m ²	8.2m ³	1.2m	8.2m ³	1
木くず	8.13m ²	8.2m ³	1.2m	8.2m ³	1

設置年月日 がれき類、廃プラスチック類 平成16年11月24日
 木くず 平成20年2月29日

<産業廃棄物処分業許可証>

都道府県 都市名	業の区分	許可番号	許可年月日 有効年月日	廃 プラスチック類	紙 くず	木 くず	金 属くず	ト く ず 及 び 陶 磁 器 く ず	ガ ラ ス く ず ・ コ ン ク リ ー	動 植 物 性 残 渣
千葉市	溶融施設による 中間処理	第 05520042951 号	令和5年11月17日 令和10年4月17日	●						
	圧縮施設による 中間処理			●	●	●	●	●	●	●
	破砕施設による 中間処理			● ①	●	●	● ①	● ①		

令和5年11月17日 変更許可 (破砕施設の設置)

破砕機2台増設 2023年12月から稼働開始

記号 ①水銀使用製品産業廃棄物（蛍光ランプ、HIDランプ、放電ランプに限る）を含む

＜廃棄物再生事業者登録＞

都道府県都市名	許可区分	許可番号	登録年月日
千葉県	廃棄物再生事業者登録	第 116 号	平成 17 年 4 月 14 日

事業の内容：廃プラスチック類、紙くず、金属くずの再生

＜廃棄物処理料金＞

処理料金は、個別見積りとなりますので、弊社までご連絡ください。

＜お問い合わせ先＞

Tel: 043-239-1988

Fax: 043-239-1990

4. 施設等の状況

＜溶融施設の種類・処理工程＞

処理施設の種類	溶融施設— 1	溶融施設— 2
処理する産廃の種類	廃プラスチック類	廃プラスチック類
処理能力(規模) 8 時間/日稼働	0.48t/日	0.72t/日
設置年月日	平成 28 年 9 月 23 日	平成 14 年 11 月 18 日
処理方式	溶融処理後 ⇒再生資源	溶融処理後 ⇒再生資源

＜廃棄物の溶融処理工程＞

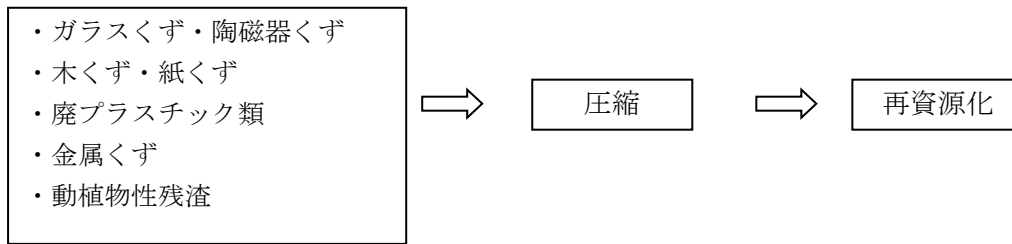


＜圧縮施設の種類・処理工程＞

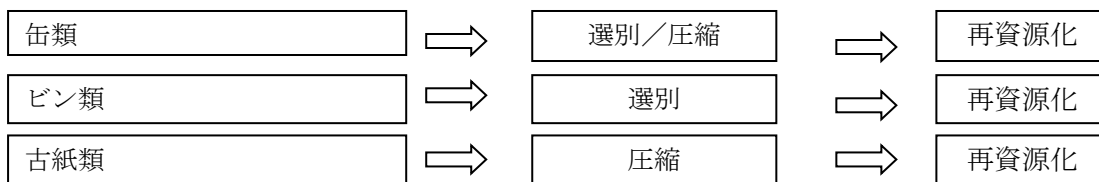
処理施設の種類	圧縮施設	
処理する産廃の種類	廃プラスチック類、紙くず、木くず、動植物性残渣 金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	
処理能力(規模) 8 時間/日稼働	廃プラスチック類	5.34 t/日
	紙くず	22.24 t/日
	木くず	69.92 t/日
	動植物性残渣	25.36 t/日
	金属くず	22.48 t/日
	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	25.2 t/日
処理方式	圧縮処理後 ⇒再生資源	

設置年月日：平成 16 年 11 月 24 日

＜廃棄物の圧縮処理工程＞



＜廃棄物の選別・圧縮処理工程＞



＜破砕施設の種類・処理工程＞

処理施設の種類	破砕施設-1	
処理する産廃の種類	廃プラスチック類、紙くず、木くず、金属くず 金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	
処理能力(規模) 8時間／日稼働	廃プラスチック類	1.76 t／日
	紙くず	1.6 t／日
	木くず	2 t／日
	金属くず	2.32 t／日
	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	2.24 t／日
処理方式	破砕処理後 ⇒再生資源	

設置年月日：令和5年9月22日

＜破砕施設の種類・処理工程＞

処理施設の種類	破砕施設-2	
処理する産廃の種類	水銀使用製品産業廃棄物（蛍光ランプ、HIDランプ、放電ランプ）に限る）、廃プラスチック類、金属くず 金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	
処理能力(規模) 8時間／日稼働	水銀使用製品産業廃棄物（蛍光ランプ、HIDランプ、放電ランプ）に限る） 廃プラスチック類、金属くず ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	1.9 t／日
処理方式	破砕処理後 ⇒再生資源	

設置年月日：令和5年9月22日

<中間処理施設廃棄物（処理前）保管施設の数量>

品目	保管面積	保管容量	保管高さ	保管上限	数量
紙くず	8.13m ²	8.2m ³	1.2m	8.2m ³	1
金属くず	8.13m ²	8.2m ³	1.2m	8.2m ³	1
木くず	8.13m ²	8.2m ³	1.2m	8.2m ³	1
廃プラスチック類	8.13m ²	8.2m ³	1.2m	8.2m ³	3
廃プラスチック類	9.03m ²	16m ³	2.0m	16m ³	1
廃プラスチック類・紙くず	8.35m ²	11.6m ³	1.99m	11.6m ³	1
廃プラスチック類・金属くず	8.35m ²	10.3m ³	1.79m	10.3m ³	1
ガラスくず・コンクリートくず 及び陶磁器くず	8.13m ²	8.2m ³	1.2m	8.2m ³	2
ガラスくず・コンクリートくず 及び陶磁器くず	6.54m ²	6.45m ³	1.5m	6.45m ³	1
廃プラスチック類、紙くず、 木くず、金属くず、ガラスくず・ コンクリートくず及び及び陶 磁器くず	8.13m ²	8.2m ³	—	8.2m ³	1
水銀使用製品産業廃棄物 （蛍光灯、HID ランプ、 放電ランプ）に限る） 廃プラスチック類、金属くず ガラスくず・コンクリートくず 及び陶磁器くず	6.75m ²	6m ³	1.1m	6m ³	1

<中間処理施設製品保管施設の数量>

品目	保管面積	保管容量	数量
廃プラスチック類	8.13m ²	8.2m ³	2
金属くず	8.13m ²	8.2m ³	1
紙くず	8.13m ²	8.2m ³	1

<運搬車両、重機の種類と台数>

用途区分	種類	台数	用途区分	種類	台数
収集運搬	4t 脱着装置付きコンテナ専用車	7 台	廃棄物運搬	フォークリフト	6 台
	2t 脱着装置付きコンテナ専用車	3 台		バックホー	3 台
	4 t 塵芥車	4 台			
	3 t 塵芥車	4 台			
	2t ダンプ車	4 台			
	2 t キャブオーバ	5 台			
	ワゴン車	1 台			

5. 処理実績

2023 年度：2023 年 10 月～2024 年 9 月

項目		単位	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
温室効果ガス排出量	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	160, 884	152, 720	128, 934	
受託した産業廃棄物の処理量等	収集運搬量	t	4, 493	3, 348	3, 697	
中間処理量	中間処理量	t	2, 819	2, 430	3, 005	
	うち再資源化等量等	t	2, 819	2, 199	2, 737	
中間処理後の処分量	中間処理後の産廃の処分量	t	2, 256	1, 876	1, 648	
	うち再資源化等量	t	2, 103	1, 644	1, 611	
	うち最終処分量	t	152	232	37	
受託した一般廃棄物処理量等	収集運搬量	t	911	854	449	
受託した再生資源の処理量等	再生資源の回収・収集等	t	776	466	213	
	再生資源の再資源化等量	t	776	466	213	
一般廃棄物総排出量	総排出量	kg	743. 5	544	496. 1	
産業廃棄物総排出量	総排出量	kg	2, 210	1, 826	1733	
	中間処理量	kg	2, 210	1. 826	1733	
	中間処理再資源化量	kg	1, 753	1, 594	1688	
	最終処分（埋立）量	kg	457	232	37	
水使用量	総排出量	各種水路	m ³	4, 438	3, 847	3, 421
	地下水		m ³	2, 438	1, 847	1, 421
	雨水（推定）＊1		m ³	2, 000	2, 000	2, 000
化学物質使用量	化学物質	t	0	0	0	
物質使用量	資源使用量	kg	309	238	1. 9	

・二酸化炭素排出係数：

令和 1 年度実績 令和 3 年 1 月 7 日公表 東京電力エナジーパートナー（株）

調整後排出係数 0.442 kg-CO₂/kWh 使用。

- ・総排水量は、地下水＋雨水（推定）の合計。
- ・OA 用紙使用量は、電子化を推進したため大幅に削減となった。
- ・最終処分（埋立）量は、削減活動を推進し大幅に減量となった。

＊1 2010 年 2 月から雨水貯水タンクを設置し、散水等に使用。

6. 環境経営目標

2023 年度：2023 年 10 月～2024 年 9 月

「2021 年度～2023 年度 環境経営目標・環境経営計画書」（2024 年 5 月 16 日作成）より作成。

No	環境経営目標	基準値	環境目標値		
		年度実績	2021 年度	2022 年度	2023 年度
1	二酸化炭素排出量の削減 注 1)	2020 年度実績 157,382 kg-CO ₂ /年	155,760 kg-CO ₂ /年 以下(1%減) 【実績値： 160,884 kg-CO ₂ /年】	159,600 kg-CO ₂ /年以下 (前年度実績値 1%減) 【実績値： 152,720 kg-CO ₂ /年】	156,000 kg-CO ₂ /年以下 (2021 年度、2022 年 度実績値の平均)
2	収集運搬車両の 収集運搬量当りの 軽油使用量の削減	2020 年度実績 6.9 ℓ/t	7.3 ℓ/t 以下 現状維持 【実績値：7.9 ℓ/t】	8.7 ℓ/t 以下 廃棄物収集運搬量の 見通しから修正 【実績値：9.68 ℓ/t】	9.0 ℓ/t 以下 2023 年度廃棄物収 集運搬量の見通し から策定
3	廃棄物収集運搬量 の拡大	2020 年度実績 6,829 t/年	6,000 t /年以上 (12%減) 【実績値： 6,180 t /年】	6,240 t /年以上 (前年度実績の 1%増) 【実績値： 4,732 t /年】	4,200 t /年以上 (2024 年 4 月度に年 度累積目標値を今 後の見通しから 4,800 t /年から 4,200 t /年に下方 修正)
4	地下水使用量の 削減	2020 年度実績 2,711 m ³ /年	2,640 m ³ /年以下 (2.6%減) 【実績値： 2,438 m ³ /年】	2,640 m ³ /年以下 (2.6%減) 【実績値： 1,847 m ³ /年】	2,460 m ³ /年以下 (9.3%減)
5	環境経営システム の活用・改善 省資源、省エネを 推進	—	システムの改善 作業標準化推進 環境活動レポートの 公開 省資源、省エネ活動の 推進	システムの改善 作業標準化推進 環境活動レポートの 公開 省資源、省エネ活動の推 進	システムの改善 作業標準化推進 環境活動レポート の公開 省資源、省エネ 活動の推進
6	自社廃棄物の削減	—	分別活動の徹底	分別活動の徹底	分別活動の徹底

* 自社廃棄物の削減は、2023 年度実績が 0.50t であり、数量が少ないため目標値は設定せず
リサイクル推進のため分別活動の徹底に取り組む。

* 廃棄物収集運搬量は、今後の見通しから 2023 年度目標値を下方修正した。

* 地下水使用量は、2021 年度、2022 年度は、2022 年度より減少しており、今後の見通しから
2023 年度目標値を見直し、2021 年度と同等とした。

* 化学物質は使用なしのため目標値は設定しない。

* 収集した廃棄物を再資源化することで廃棄物を削減できるため、廃棄物の受入量拡大
(産業廃棄物収集運搬量＋一般廃棄物収集運搬量)を、環境経営目標とした。

* 2023 年度は、2020 年度実績値に対し変動が大きく基準値に対する目標値策定ではなく、
前年度実測値と今後の見通しを考慮して 目標値を策定する方法に変更した。

*地下水使用量は、砂塵飛散防止のため散水頻度の増加と車両の清潔感を確保するために使用量は増加するが、節水活動を推進する。

注1 二酸化炭素排出量は、電気使用量、軽油使用量、ガソリン使用量、灯油使用量の二酸化炭素換算値の合計とする。

7. 環境経営目標の実績と取組結果 2023 年度：2023 年 10 月～2024 年 9 月

「2023 年度環境経営目標・環境経営活動計画／進捗管理表」より作成。

No	環境目標	2023 年度 目標値	2023 年度実績 目標値に対する達成度	結果
1	二酸化炭素排出量の削減 注1)	156,000 kg-CO ₂ /年以下	128,934 kg-CO ₂ /年 (目標値/実績値: 18.9%減)	○
2	収集運搬車両の収集運搬量 当りの軽油使用量の削減	9.0 ℓ/t 以下	8.65 ℓ/t 10.20 (目標値/実績値: 3.9%減)	○
3	廃棄物収集運搬量の拡大	4,200 t/年 以上	4,360 t/年 3697 (目標値/実績値: 3.8%増)	○
4	地下水使用量の削減	2,460 m ³ /年 以下	1,421 m ³ /年 (目標値/実績値: 30%減)	○
5	環境経営システムの運用・ 改善による省資源、省エネ を推進。	・システムの改善 ・作業標準化推進 ・環境活動レポートの 公開 ・省資源、省エネ活動推 進	・マニュアル、手順書見直 し ・環境活動レポート作成・ 公開 ・省資源、省エネ削減活動 実施	○
6	自社廃棄物の削減	分別回収の徹底	分別実施	○

記号：○ 目標値達成 △ 目標値より 5 %以内未達成 × 目標値より 5 %以上未達成

注1 二酸化炭素排出量は、電気使用量、軽油使用量、ガソリン使用量、灯油使用量の二酸化炭素換算値の合計とする。

購入電力の二酸化炭素排出係数は、令和1年度実績 令和3年1月7日公表

東京電力エナジーパートナー(株) 調整後排出係数 0.442 kg-CO₂/kWh を使用。

1. 廃棄物収集運搬量拡大は、2024 年 7 月度まで 7 カ月連続で目標値未達成であり、年度末の累積目標値を 4800 t/年から 4200 t/年に下方修正した。
下方修正した年度末累積目標値に対し 4360 t/年となり年度末累積目標値を達成した。
2. 電気使用量、燃料使用量が前年度より減少し、2022 年度 152,720 kg-CO₂/年に対し、2023 年度 128,934 kg-CO₂/年となり、前年度より二酸化炭素排出量は減少した。
3. 地下水使用量は、雨水貯水タンクを設置し散水等を雨水使用することで地下水使用量削減に取り組んでいる。
散水は今後も継続するが、撒き過ぎないように努めて節水を図る。
2024 年度目標値は、今度の見通しから見直しを検討する。
4. 自社廃棄物の削減は、環境活動として取組んだ。

8. 環境活動の取組結果と評価及び次年度の環境経営目標、取組計画

環境活動	環境活動取組施策	評価	取組結果と評価 次年度の取組計画
二酸化炭素排出量の削減			
収集運搬車両の廃棄物 収集運搬量当りの軽油 使用量の削減	①アイドリングストップの徹底 ②エコドライブの実施 ③定期点検の徹底	○ ○ ○	・アイドリングストップ、 エコドライブは徹底されて きた。 ・日常点検実施。 ※次年度も取組はそのまま 継続し推進する
事務所・照明の電気 使用量の削減	①節電活動の徹底 ②エアコン適温設定での運転 ③エアコンを省エネ対応へ変更	○ ○ ×	・節電活動実施 ・適正温度での運転定着 ・エアコン切替なし ※次年度も取組はそのまま 継続し推進する
溶融機の電気使用に よる二酸化炭素排出量 の削減	①中間処理施設（溶融機）の 効率的稼働の徹底 ②種類にあわせた溶融条件の 変更	○ ×	・設備の空運転時間削減。 ・溶融条件変更なし。 ※次年度も取組はそのまま 継続し推進する
破碎機の電気使用に よる二酸化炭素排出量の 削減	①中間処理施設（破碎機）の 効率的稼働の徹底	○	・設備の空運転時間削減。 ※次年度も取組はそのまま 継続し推進する
廃棄物の削減			
廃棄物収集運搬量の 拡大	①排出事業者への分別提案 ②広告紙への掲示。 ③営業強化	○ ○ ○	・分別提案実施。 ※次年度も取組はそのまま 継続し推進する
OA 用紙使用量の削減	①両面コピー、裏紙使用 ②メール等のペーパーレス化	○ ○	・定着した。 ※次年度も取組はそのまま 継続し推進する
自社廃棄物の削減	①分別活動実施	○	・自社廃棄物を、OA 用紙、 新聞紙、段ボール等に 分別を実施し、再資源化。 ・分別を実施することで 可燃ごみ（焼却）の量 削減に努めた ※次年度も取組はそのまま 継続し推進する
水使用量の削減			
雨水利用による地下水 使用量の削減	①雨水の利用拡大による 地下水の節水 ②洗車、散水の節約	○ ○	・洗車時の節水実施。 ・砂塵飛散防止のため散水実施。 ・散水し過ぎの防止の徹底。 ※次年度も取組はそのまま 継続し推進する

環境経営システムの活動・改善	①システム改善 ②作業標準化の推進 ③環境活動レポートの作成・公表	○ ○ ○	・環境目標、目標値、手順書見直し実施。 ・環境活動レポート毎年作成 ※次年度も取組はそのまま継続し推進する
----------------	---	-------------	---

評価記号：

○：計画通りよくできた △：実施はしたがまだ問題がある

×：全くできなかった（未実施も含む）

（環境会議で合議により評価実施）

次年度目標値

環境経営目標項目	2024 年度環境経営目標値
二酸化炭素量を削減	2024 年度目標値 127,644 kg-CO ₂ /年以下
収集運搬車両の収集運搬量当たりの軽油使用量	2024 年度目標値 8.56 ℓ / t 以下
廃棄物収集運搬量（産廃＋一廃・有価）の拡大	2024 年度目標値 4,404 t /年以上
地下水使用量の削減	2024 年度目標値 1,404 m ₃ /年以下

*達成手段は、そのまま継続する。

9. 環境関連法規の順守状況

（１）当社が遵守しなければならない環境関連法令等は次の通りである。

廃棄物処理法、自動車 NO_x・PM 法、消防法、貨物自動車運送事業法、道路交通法、浄化槽法、労働安全衛生法、計量法、グリーン購入法、フロン排出抑制法、家電リサイクル法、小型家電リサイクル法
千葉市環境保全条例、千葉市廃棄物処理及び清掃に関する法律施行細則、千葉市廃棄物の適正処理及び再利用等に関する規則、千葉市廃棄物の処理設置及び維持管理に関する指導要綱

（２）環境関連法規等の順守状況

当社が遵守する環境関連法規等に関して「環境関連法令登録表／遵守評価記録」で 2024 年 9 月 30 日に遵守評価をしましたが、環境関連法規等への違反はありませんでした。尚、近接住民からの苦情、関係当局からの違反等の指摘、訴訟等は、過去 3 年間ありません。

10. 代表者による全体の評価と見直し・指示の結果

2024年10月21日に2023年度環境活動結果に関して、代表者による全体の評価と見直し・指示を行い、下記の結果となりました。

1. 全体の活動結果評価：

＊2023年度年度末累積目標値は、全目標とも目標値達成。

＊今後も目標値達成のため活動を推進すること。

＊環境経営目標は、2024年度も変更せず継続する。

2024年度目標値は、2023年度実績及び今後の見通しから環境会議で検討し策定すること。

＊水使用量は年間累積目標値と年間累積実績値が乖離しており目標値が適切か検討すること。

2. 指示事項

(1) 環境経営方針、

＊変更の必要なし。

(2) 環境経営システム、実施体制

＊変更の必要なし。

ただし、必要があれば文書、記録類を改訂すること。

(3) 環境目標、環境活動計画

＊2023年度実績及び今後の見通しから、2024年度の目標値、及び活動計画を見直すこと。

11. 環境保全活動

地域の環境の維持のため事業所周辺の整備、清掃に心がけると共に周辺地域とコミュニケーションを図っています。